

授業科目 小児言語障害学特論Ⅰ

| | | | | |
|-----------------|------|----|-------|----|
| 【担当教員名】 磯野信策 | 対象学年 | 4 | 対象学科 | 言語 |
| | 開講時期 | 前期 | 必修・選択 | 選択 |
| | 単位数 | 2 | 時間数 | 30 |

【＜一般目標：G I O＞】

言語発達遅滞、構音障害、吃音を中心として、言語聴覚士が相談・指導を行う小児の言語障害および発達障害について、3年次までに学修してきた理論や知識を基礎として、さらに専門的な学習と経験を積み上げて研究を行う。
個々の学生の興味関心に即して学習目標を設定し、個人ないしは小グループでの学習を進める。

【＜行動目標：S B O＞】

1. 自分の研究課題を設定し学習計画を立案する
2. 学習計画に基づいて、随時、口頭ないし文書で報告する
3. 地域で臨床を行って成果をあげている言語臨床家の実践談を聞いて研究の参考とする
4. 言語聴覚士国家試験対策として参考資料を収集・分析し、他の学生に報告する。

| 回数 | 授業計画又は学習の主題 | SBO | |
|------|---|-----|--------------------|
| | | 番号 | 学習方法・学習課題又は備考・担当教員 |
| 1 | ガイダンス | | |
| 2~4 | 研究課題設定に向けた準備と報告 各学生が自分の興味・関心・問題意識について報告することを通して研究課題をより鮮明に具体化する。 | 1 | 各学生の発表と参加学生と教員の批評 |
| 5~14 | 研究課題の遂行経過報告 各学生が学習計画に基づく研究課題遂行状況を報告し、教員と学生の批評を受けて以後の学習の参考とする。 | 2 | 各学生の発表と参加学生と教員の批評 |
| 随時 | 臨床家による実践報告 小児言語障害の種々の専門分野、種々の立場（病院、教育、福祉等）で顕著な実績をあげている臨床家を招いて講演会を開催し、もって各自の研究および将来の臨床業務への取り組みの参考とする。 なお、これは公開として他ゼミの学生も参加する。 | 3 | 講演 |
| 5~14 | 国家試験対策 小児言語障害に関連する国試問題の分析と研究を行い、発表する。試験問題を作成する。 | 4 | 各学生の発表と参加学生による質疑 |

| 【使用図書】 | <書名> | <著者名> | <発行所> | <発行年・価格・その他> |
|--------|--------------------|-------|-------|--------------|
| 教科書 | なし | | | |
| 参考書 | 研究課題に応じて随時設定する | | | |
| その他の資料 | 必要に応じて教員ないし学生が配布する | | | |

| | |
|----------------------------------|-----------|
| 【評価方法】 出席状況とレポート(口頭及び文書)で評価する | 【履修上の留意点】 |
|----------------------------------|-----------|